佛ト云ユヘアラム歟

○梵網經奥偈

雖有所尋古人多分曰羅什所置也云云不如意處者（惡道名也）盡形壽（盡衆同分也）

延慶二年六月十六日梵網經抄物終功了此十戒四十八經乃至懺悔佛供養等詞一一先師

上人ノ說也更不交餘詞仰可信者也其質不肖而頑魯雖拙依宿緣深今逢知識而見聞此極

理宿殖般若之善種非可疑尤有憑可歡喜可隨喜

◎佛說咒齒經

宋晉三藏曇無蘭譯

南無佛　南無法　南無比丘僧　南無舍利弗大目揵連比丘南無無覺意名聞遍十方北方

健陀摩訶衍山彼有虫名羞吼無在其牙齒中止今當遣使者無啟食其牙及牙根中牙邊中若

不速下器中頭破作七分如鳩羅嘲蟾梵天勸是咒南無佛令我所咒皆從如願

佛說咒齒經

若行此法以淨水含咒一遍後吐器中即止

碓米事

六祖昔薪を荷をとせりき道に客の金剛經をよむを聞て發明しき母のまつしかりし

をかへりみむかために薪をはうりけり人發明を隨喜して銀卅兩をあたへけるを母に

たてまつりておのれは黄梅山大滿禪師へまいりぬはしめて大滿にみへたてまつるに

とひたまふ儞はいつくの人そ云く嶺南の人なり大滿の云く何事を求てかこゝに來れ

る云く佛にならむ事を求む大滿の云く嶺南の人には佛性なし何としてか佛にならむ

祖の云く人には南北ありとも佛性には南北あらし大滿ひそかに法器なりとしりて行

堂にいれて米をつかせけるに大滿思へらく傳法の時いたれりひとり祖にしつたへは

人これをそねむへしあまねく傳法のよしをつけて七百人の僧にかたりて云くいつと

なく我いふことをのみ聞もちたらんその詮あるへからす各しれらむ所をいひのふへ

しもし悟るところ佛法ならむには衣さつけて法をつたふへし時に我も〳〵と僧とも

いはむとするにひとりの僧いふていはくこのことは我等かいふへき所にはあらす我

等か上座にて神秀上座あり定てかの人のいふへき所なりかたはらの僧ともいはくま

ことにしかるへしこれより後はかた〳〵の僧はいはむともせすひとり神秀上座にそ

いはせむとすれとも心のをよふまてもなかりけるにやよをかさねてやすくもねすお

もひてゝ猶師に向ては申に今寺のかへに偈を書けりあくるひこの偈を大滿御覽して
これはいまたかとの内にもいらすさらに又偈を造てみすへしと仰られけりこの偈を
滿寺の僧も童もとなへ誦しけり、これをこの米つく所にて聞てこれはなにそと問けれ
はこれこそは和尚の傳法の人を求させ給に神秀上座の造られたる偈なれといふに祖
のいはくよさは即よし悟にはいまたさとらすかく云をきくもの六祖をわらひて云く
庸流なにとしてかしるこれをよしともこれをあしともそのゝち祖ある官人にいはく
我この偈をかたはらに一の偈をかゝむと思に文字をしらす我ために書てえさせてん
やといへは官人あわれみあやしみていはく我かくへしもし得道し給はゝまつ我をわ
たし給へしといひけれは祖その約束をなんせさせたまひにけりもとの偈のそはに書
たりけるかいともとのよりもめてたかりけれは人あやしみていはく我等日比肉身の
菩薩をつかひける事こそといひけり大滿これを聞て人の六祖をやふり害せんことを
恐てこれはいまたいたらさる人のことは也とて偈をしのこひて人にみせさりけりし
かはあれとも人は祖の偈をそいみしかりける大滿ひそかに夜ふかく人のしらさりけ
るに六祖をめして偈わかところに來てやつきまてになれりといへとも本とりにちか
つきさる事は偈をして人にそむせさらんかためなり祖のいはく我も又師の御意をし

れりといひけりときに大滿の傳給へる所の釋迦如來の御袈裟幷に鉢なと傳給て第六
代の祖師となしたまひてけりこれより夜半傳衣と云事つたはれり

法語　開山御詞

人身をうくる幸運は佛法にあふをすくれたりとす佛法にあふには修行するを親切な
りとす佛法を修行するには參禪學道を正嫡とすることはまさしく證契の祖にあひう
け轉嫡々相承いまにたえさるかゆゑにあやまらさるへきなりもしこれをはなれては
うたかはさるへきことかたし參禪學道には第一に吾我をなけすつるを知識のほとり
にして道をきくはしめとすすてに吾我をはなれて修行するを大道に通達するおはり
とす吾我によりて大道をつたてたるかゆえにおほく佛道を退することは吾我〇〇〇
れにあらぬをみたりにわれとおもふに〇〇〇〇退せしなりまとひのふかきといふへ
し〇〇〇〇もありきいまもこゝろすへしこの〇〇〇といふものゝありやうはたとへ
は人のはなをみ月をみるかことしいはゆる花もとより人のためにひらけす月はしめ
より人のためにのほらす人これをみてもてあそ〇〇することほかをわすれたりしか
あれとも〇〇〇なし月もよろこはすとゝまらす〇〇〇しからすその詮なきかことし
した〇〇〇〇〇とするにあたはすへたゝれること十〇〇千なりつねにすなはちかせ

たち水うつりぬれは一塲の敗闕なり人の吾我を愛するも又それかくのことし執して
なけすてかたきことはいしよりもかたく丹にもすきてきしかたししかあれとも火も○
えはいもさめぬれは功たれにつくとも○○かくのことくなるなかにおこなふひとつ
の妙術ありいはくこの吾我はた○○のにてもあれしはらくこれをかり○○○を修行
し參禪學道するときこの修行○吾我のためにはあらすとならふ也もし吾我の○めに
とおもひてならふはたとひ大乘甚深の佛法おゝこなふとすれともいまた二乘外道の
いゑをはいてたるにはあらぬなり又吾我をはなれて修行すればわかためにあらぬなり功德のお
ほかるへきとまたすたゝひとすちに佛法のために修行するとおこなひゆくとき耳天
眞の○父をたつねくるみちにしてまた○れ○おのつから地涌の弟子をみるこれ○○
○○○行の直道をつたえきたれりと
○禎つちのえいぬ冬のはしめにかく

沙門道一在判

○八落歟

附錄

左ニ揭クルハ原本ノ表紙等ニ記サレタルモノニシテ一字ヲ漏サス玆ニ集錄セリ

●抑恁麽什麽如何聾々兩三兩朝打三千暮打八百朝三暮四長三夢四八兩半斤ナムト云詞常此宗門ニ仕付タリ能々可心得其詞多クレトモ先少分ヲアク喩ヘハ萬里ヲユカム人一歩ヨリヲコスカ如シ如何ト云詞物ヲ不審シタ問ト覺タリ非爾ヤカテ答トナル汝何姓ノ問答ニモ此何ノ字イカナルトハ不可心得ヤカテ何ノ字ヲ佛性ト心得也何國ノ國何姓ノ姓アル事ヲ可知也若有畜生類得聞釋迦名永離三惡道不生八難所云々惡見邪見單提斷善根者無罪云々經文及論文如此、僧始書文字時必先可書三寶云々經云離車衆北國者也邊國也(原本第二)

●釋道秦寢病四日四夜專念觀音于時觀音放光告道秦曰若其機感厚定業亦能轉若過現緣淺少幷無給若發歸命心當知機感厚若周不稱念當知宿緣淺便覺躰輕所患忽愈矣持念要文一反披覽之次抄出之佛說阿含經御シ、時八臆諸天皆得無生忍是大乘器ナル故也、四諦聲聞ハ證羅漢果シキ是小乘ノ器ナル故也、金翅鳥非生龍者不食補處菩薩非都率者不生、出家之後神社所作法施ハ無憚或致禮拜奉致事不可然事也、日月星宿ノ祈禱ハ佛弟

○臆ハ億歟

子ノ非法也、鴉ヲ飼ニ五百年之後習舞千年之後無改云々(原本第三)

●抑身心學道ト今草子ヲ被名ウヘハマツ身ノ事ヲ可被釋ト覺ユ而第二未了心ラ先被釋事不審又可謂名目相違但倩案ニ日來ノ吾我ノ見ニコソ身ニ心ハ具足スレハ前後アルヘシトハ心得レ身心モトヨリ前後淺深アルヘカラス、アヤマリテ舊見ヲ破カ爲ニハ如此イハヽ彌佛法ノ方ハ親切ナルヘシトモ心得ヌヘシ、在家五戒歟廻向無上菩提者爲無上菩提ノ種、太賢先德名也古跡抄物尺十戒ト、三薰三沐、一沐一薰スルコト三度也洗淨事也燒種々香(原本第四)

●水有八功德、一清淨、二不臭、三輕四冷五軟六美七飲時調適八飲已無患、洞山因僧問時時々勤拂拭莫使染塵埃爲甚麽不得他衣鉢、師云直饒道本來無物也未合得依衣鉢且道甚麽合得僧下九十六轉語皆不相契末後云設使將來他亦不受師深肯之、窮諸玄辯若致一毫於大虛、竭世樞機似投一滴於巨壑、將疏抄便燒(原本第五)

●京兆米和尚ハ南嶽ノ下百丈孫弟子潙山靈祐弟子也米和尚與仰山ハ同法也、潙山與仰山師弟名ヲ取合テ潙仰宗トハ云也曹洞宗モ同之(原本第六)

●百千破鏡不重照事、一度ノ破鏡モ百千ノ破鏡ト何事カ有相違乎大悟底却迷事ト有返答ナレハ破鏡不重照ト云時ニ大悟底人ハ又迷事アルマヽシキ答歟ト覺ル所ニ不然大悟底人又迷不迷ノ事ヲ答スルニ非ス破タル鏡モタヽワレト一ヲアケ落花難上樹モワレ一ノ事ヲイフサラニサトリノ人モ又迷フ又迷ニナルトイハヌコトク心得ヌル時ニ今又百千破鏡不重照トアル甚不心得然而百千破鏡トハ盡界悉破鏡ナル事ヲアカス詞也破鏡ト云テハ盡界破鏡ト可心得也、壽者命者事、刹那生滅スルヲ云壽一生不盡云命殺ト云ハ有命生未盡者也、同分罪事或號同類罪同分罪者集僧穀同鐘如此之類破取之謂同分罪(原本第七)

●或僧百丈云、依經解義三世佛怨此理如何、百丈答曰堅執動靜三世佛怨此外別求如同魔說、青原惟信禪師上堂老僧三十年前未參禪時見山是山見水是水及至後來親見知識有ケ入處見山不是山見水不是水而今得ケ休歇處依前見山祇是山見水祇是水大衆這三見解是同是別有人緇素得出許汝親見老僧、德山仁繪禪師上堂至道無難唯嫌揀擇但莫憎愛洞然明白山僧即不然至道最難復是揀擇若無憎愛爭見明白雲居膺因僧問如何是一法師曰如何是萬法未審如何領會師曰一法是爾本心萬法是爾本性且道心與性是一是二僧禮拜師示頌曰一法諸法宗萬法一法通唯心與唯性不說異乘同婬欲即是道事喜根比丘ノ義ニハ婬欲モ瞋痴モ即是道ト云ハサラムハ佛法ハ天與地ノ如クトヲカルヘシト云云勝意比丘ハ又婬欲即是道ト心得ムハ佛法ヲ隔事天與地懸隔也ト云喜根比丘ノ見ノ方ハ皆

成佛シ勝意比丘ノ方ハ皆墮獄ス已善惡ノ見ヲ發ス隨又善惡ノ證據顯然也安然和尙此事ヲ被釋ニハ善惡ノ法定慧ノ二法ヲハナレタル事ナシ即是道ノ言僻見ナルヘカラストテ自問自答セラルヽニハ三毒トモニ道ナラムニハ何ソ諸大乘經ニサカリニ此事ヲイマシムルソヤト問コレヲ答スルニ但除其執不除其法トアリシカルヲ同天台衆ノノ輩モソノ法ヲ行セムモノ爭其執ヲノソクヘキヤト難スタヽシ安然ノ御心地ハ定慧ノ二法ト心得ヌルヲモテ除執トハ可心得歟但此門ニハ執着トモ不解除執トモヲシヘス不觸事而知ノ如シ不對緣而照ノ如シ(原本第九)

●喜根比丘ノ見ヲ可心得樣ハ三毒ハ道也道ハ三毒ニアラスト云ヘキ也緣起ハ行持也行持ハ緣起セサルカユヘニト云カ如シ努々アシク了見シテ不可墮僻見ヨク〳〵ツヽシムヘシ、梵語事正法眼藏第五十六見佛保寧仁勇禪師段有此事唵摩尼悉哩蘇嚕唵ハ三身義也摩尼者寶部接屬之詞悉哩蘇嚕者成就之詞或又滿足之義也大乘未悟道與小乘悟道勝劣事問宗門ハ唯心悟道セサラムハ得益ナカリヌヘシ然者只念佛申テ極樂ニ往生セムマサルヘシヤ　答アキラメストモ猶宗門參學勝ヘシ又問其謂如何　答佛法ハ大小權實ワカレタリ三乘五乘イミシキ事也トイヘトモ人天乘ハイカニモ三界ノ中ノ善惡也聲聞緣覺ハ三界ノ苦ヲハナレムトイトナム許也八十八品ノ見惑(原本惡ニツクル)八十一品ノ思惑(原本惡ニツクル)ヲ斷(原本談ニ作ル)ス是ハ三明六通ノ大羅漢トイハレテメテタキ也サレトモ成佛ノ方ニハ無下ニ言甲斐ナシイリタル程カレタル木ニタトフ犬野干ノ類トキラハルヽ證果スト云ヘトモ成佛ニハキラハル無我也トイフユニ一心ヲイトフト云ハ成佛ヲイトフナリタトヒアキラメストモ唯心ヲ談シ諸法實相トヽカハコレステニ成佛ヲ沙汰スル者ナルユヘニ小乘ノ敎ニハマサル成佛ノ道ニハヲトルタヽシハラク所々ノ着ヲハナタムタメニ小乘ヲハ佛トカセ御スト思ヘシ(原本第八)

●六祖大鑑禪師示志達禪師云(法達是也)無上大涅槃圓明常寂照凡夫謂之死外道執爲斷諸求二乘人自以爲無作盡屬情所計六十二見本(原本第九)

●福僧(人名也)一百廿歲ニテ出家ス舍利弗目連迦葉不聽出家然而終佛度給、尼俱律陁樹又號尼拘利陁樹此木其勢大ニテ車五百兩立隱木下云々其種破芥子六分程也佛下種結緣又如此仍被引證也、佛相好事、不可謂善惡不可改置云々、四燈錄傳燈錄廣燈錄續燈錄普燈錄一部八俗錄之三部ハ僧錄之(原本第十三)

●迦葉離四淫(寶積經)一利養二惡友三惡衆生四自心恒仕自終日不隨心他心恒仕地云何稱我心、永嘉眞覺大師慧威大師弟子然而只一夜參六祖悟道本天台宗祖師云々(原本第十一)

●涅槃經四十卷幾是佛說是佛說幾是魔說答曰總是魔說也祖師問答也(舊本第十二)

●幽州盤山凝寂大師嗣馬祖諱寶積嘗因於市肆行見一客人買猪肉語屠家曰精底割一片來屠家放下刀子叉手曰長吏那箇是不精底師於言下有省寶積禪師寶徹禪師ト同法也皆馬祖下也此寶積禪師聞今詞得悟スル也雲門ハ雪峰弟子保福同雪峰弟子也、佛ノ御誕生ハ甲寅涅槃ハ壬申、甲寅ヨリ壬申マテ算レハ七十九年ニ當也當時如來大師入槃涅槃ト書テ柱ニヲス(原本第十三)

●此土不根利故遍用聲塵、首楞嚴經圓覺經或云疑經各譯者一人也此譯者不譯他經々甚有疑、玄沙ヨリ首楞嚴經引用之疑經也不可用云々今經云性生智隔云々(原本第十四)

●光明盤世界此國ヲ甘鉢勢一由旬云々、目連以通力至此國昇大黑山思フ是菩提鉢也云々、三藏子、生、蹙、融、叡已上四人也姓ハ竺(原本第十五)

●永嘉眞覺大師ハ妙樂大師也、菩提樹ヲハ名延命ス云々(原本第十六)

十二因緣事

無明(惑痴)
行(過去諸行)　過去二二因
識(自行諸得識)

名色(入胎有五位)
六入(六根具足)
觸(四根境識未具位三歲小兒是也)
受(知也七八歲是也)　現在五果
愛(依愛取妻子等位)
取(貪珍)　現在三因
有(依珍現位積受)
生(未來性)
老死(未來果)　未來二果

●相遮那居極理示本覺心下曰內證住右方、切國名號事佛々ノ相ユルシテ此佛ハ名號ヲハ何ト云ヘシ國ヲハナニト云ヘシト前佛ハ後佛ニ授記スルナリ(原本第十八)

●長爪梵士ハ外道也佛ニツメラレマイラセテ忽出家得道俱胝羅ト者長爪梵士カ出家ノ後名也佛弟子トナレリ又舍利弗ノ母ハ長爪梵士カアヂナリアヂニ論議シテ瞋恚ヲイタキケリ、十四難ハ涅槃經說也、外道儲十四難佛ヲツメタテマツラムトスル也世界ノハテハ如何ナムト云程ナル難共也佛總不答給(原本第十九)

●泉源不通ハ砂ニ致塞却道眼不通ハ何被礙答之被眼礙ト云也、九十六種外道事、六師各々弟子十六人有之仍九十六種也加本師六人者百二人歟、九十五種外道事、外道法九十五種云々一者佛道也仍號九十六種云々(原本第十九)

●傳敎ハ延曆廿三年御渡唐(唐ノ年號德宗—王名、貞元廿年甲申)大師御在唐之間同時ニ在唐シ猶祖師ハ百丈黃檗天皇雲巖、藥山等同時ニ坐セリ是等共ニユヽシキ祖師達也、婬女ハ夫ノ不婬ヲハ無情ト云佛菩薩ハ以慈悲之故不婬見色ハ如眼塵暫モ如不可置凡夫見色如珠思之甚異(原本第二十)

●四向者、四果ヲ次第證セムトスル初ノ時刻也四相八僅、四禪、初禪二禪三禪四禪四禪ハ中陰現生天上四果ハ無後業任意知八萬劫願成辨、四果聖者、或云四沙門果、須陀洹道(預流果トイフ)初果、斯陀含道(一來果トイフ)二果、阿那含道(不還果トイフ)三果、阿羅漢道四果(原本第廿一)

●逢邪師者毒蛇ニ逢ヨリモ可恐毒蛇ハ破一生身邪師ニ逢ハ斷善根者トナル返々可恐可愼、栖且佛法憾事三ケ度云々、十重毗婆沙論云(大論是也)淨土千劫修ヨリモ穢土一日行ハ勝タリ取意、涅槃經云師於其心不師其心得天送食者三人雲居洞山弟子逢師之後天食留也通玄花嚴宗人也號李長者道宣律師號澄源(原本第廿二)

●佛ノ御姿不可有定量娑婆世界ニ出現シ給トキ三十二相ヲ具足シ給也其故ハ此娑婆世界ニ取テハ轉輪王ニ過タルアルヘカラストテ、此姿ヲ借テ現シ給今ノ輪轉聖王ハ三十二相ヲ具足シ給云々假令天上ナムトニテ三十二相ノ○○○○給ハムトキハ國王ノ御ソハニ人民等ノ居○○○○○ルヘシ三十二相ノ姿天上ニテハ如此、校量數珠功德經云一千八十以爲上一百八以爲中五十四以爲下弟子算數都不見菩薩子念誦者雖置如念誦有功德云々、年五六歲而根聰利(中有同事也俱舍文)欲往前路無資粮求住中間無所止(原本第廿三)

●禪門五家事、法眼(文益)、潙仰(靈祐惠寂)曹洞(良价)雲門(文偃)臨濟(義玄)是云五宗也、是云五宗也但當流不許之所々被誡之也、普門品當塗王經ト號、法花經中佛性在此品世尊解羅什不譯之間那笈多譯之、拋我々所非求者如依木尋魚切水得火云々拋名聞利養求道々厭親族棄鄕土事ハ安シ拋自者難シ、開山上堂御詞也、小便之後以如草木葉並香有淨手事密宗ニハ誦眞言我宗門ニハ無咒其上禮佛經時爲不法不可用之云々、尺摩男、天竺人也大福力人也手ニ土ヲニキリシカハ此土皆成金也(原本第廿四)

●五眼事、肉眼天眼佛眼法眼慧眼是云五眼此五眼次第必非一樣思々ニ連之不同也、佛名事、釋師子師子、王、象王、鵝王、金繩、瞿曇、僧名事、大龍(僧有德名)小龍(僧無德名)龍象、雲衲、雲水、剃

髮、染衣、縞、大人(有力大人比丘名見敎經)三學者、戒(毗尼)定(修多羅經也)慧(阿毗曇論也)小乘、三界ヲ厭テ後業アルマシキヲ極位トス、權大乘、三界ヲ厭テ菩提ヲ證ス、實大乘、凡惱ヲヤカテ菩提ト談ス(原本第廿五)

●佛浴々佛將錯就錯也將錯就錯ハ唯佛與佛ナリ、故調浴佛之儀可述淸淨之思云々、是ハ於永興寺被行上堂之時故上人上堂詞也、貪名愛利流福皆空外道見、虛空王佛是如虛空云々不得道見ナリ、鐘頌日一聽鐘聲當願衆生脫三界苦得證菩提、五十餘年說轉妙法輪一字不說、佛ニハ延促刼智ト該刼ヲモ刹那ト云事アリ是也(原本第廿六)

●師外道如賢王經說佛在時死云々如涅槃經說猶生云々兩說不同如何、悲華經云懈怠菩薩ハ願淨土(一切善障碍也)、七種生死之內無後生死之後最後身ノ菩薩ト生スルナリ、二種生死ト云ハ分段生死變易生死等也變易ト云ハ七種生死ノ內流來ヨリ至于無後皆變易也、才鈍事、千萬卷經書一日覺之謂之世智辯聰病、○○トハ佛道ニハ云信也非世智辯聰是ハ八難所也也雖逢道不得也、●不驚也瓔珞經云入三寶海以信爲本云々信者明也傳也云々、密トハ不亂世羅睺密行ト云ハ不寄想壁衆會時不見女人端坐之時必跏趺如此等之密行也、密委示也、密報委報也、密絹ヨキ絹也厚也、五分法身事、戒身定身惠身解脫身解脫智見身、不滅盡身是也、五陰者、色受想行識五蘊ハアツマル心ナリ、佛四十年之間方便說十方淨土不限西方ナリ(舊本第廿七)

●燃燈佛定光佛ハ同體異各也或錠光佛ト書之定光佛見船錠發心云々錠、第四天ニハ佛必生佛法定式也、欲界色界無色界欲界上無色界三界ハ重並兩說也、三轉法輪事於十二因緣及四諦有示相勤修行證是名三轉法輪聞之機生眼知明光、佛前佛後北州長壽天等十二因緣云々、經總名ヲ號般若之義有之、無生法忍、都罪不被造也、一機一緣說佛方便也、童眞位ハ雖儲妻子無女事謂之童眞位也、勤請請留佛涅槃也、隨喜隨喜佛法也、廻向所修善廻向一切也、發願成佛得道、發願也(原本第二十八)

●借世俗文字談實相義理非也、阿耨多羅三貌三菩提者佛ノ覺也、初夏比丘ノ拜ニハ不答拜大已五夏大已十夏之閣梨禮如師同夏禮拜答拜無憚云々、黃龍ノ死心和尙ハ臨濟ヨリ十代ノ末黃龍祖心禪師ノ弟子也、黃龍ノ死心ハ悟新禪師トモ云也、佛還作衆生儀天台所立歟宗門不可然、難陀尊者事、證果後於衆會中先頻見女人貪婬習氣、聞法有三、下士以耳根聞之中士以心聞之上士以身聞之、生施有三遲疾現(原本第二十九)

●被接名別天台名目、待期爲則、有無斷上、默然令解大令解出狀令解ト云事有、物モイワスシテ解スルヲ大令解ト云フ、心得タル義ヲ出シテ問是ヲ出狀令解ト云也、卑下慢、我身ニモ善惡佛道修修行難叶ト思フ是也、增上慢邪正一如トモ善惡不二トモ諸法實相トモ聞

スレハサテハ我身不可有悉ト思フ是也(原本第三十)

●比丘二百五十戒、比丘尼五百戒、三千威儀戒、捨戒事、不還戒シテ犯之爲罪棄戒ハ還戒シテ犯之無咎受ケタル師ノ程ナル僧ニ逢テ還之受タル師ヨリモ劣ナル僧ニ逢テハ不被還也、羅漢果マテハ魔猶是ヲマナフ云々、死魔等覺位猶在之、天子魔於樹下休之、煩惱魔自發菩提休之、涅槃經有魔說道爲令知外道法也云々、魔事摩訶般若波羅蜜經第十五有魔事、洞山悟本大師ハ死スルコト七箇日延之入滅、壞色事非本五色皆染壞也久如被侵雨露色或說云白色之外云壞色幷此(原本第三十但梵網經畧抄ノ部)

●梵網經奥偈、雖有所尋古人多分曰羅什所置也云々、不如意處者惡道名也、盡形壽盡衆同分也(原本第三十一但梵網經略抄ノ部)

明治三十六年十一月二十七日印刷
明治三十六年十一月三十日發行

著者　經豪禪師
繼承者　田原普　大分縣豐後國東國東郡豐岐村泉福寺住職
印刷兼發行者　今村金次郎　東京市芝區露月町十八番地
印刷所　株式會社秀英舍　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地
藏版所　泉福寺　大分縣豐後國東國東郡豐崎村
發行所　東京芝區露月町十八番地　電話新橋三千二十七番　鴻盟社

版權所有

題	函	冊	著者
上洞編正脈正法眼藏	正	全	曹洞出家服五位顯訣
正法眼藏	正	全	道元
正法眼藏	正	全	道元
正法眼藏	正	全	道元

靈照	いろはの義解	全一冊	十二錢
天覽	教史論	全一冊	四十錢
ドレパー	學	全一冊	六錢
宗務局	曹洞宗制規大全	印刷中	四十錢
現行	曹洞宗々制	全一冊	十八錢
明治一年	普達全書	全一冊	二錢
明治二年	普達全書	全一冊	三十錢
明治三年	普達全書	全一冊	十五錢
明治四年	普達全書	全一冊	二十五錢
明治五年	普達全書	全一冊	三十五錢
	國體義	全一冊	十五錢
釋宗演	萬國宗教大會一覽	全一冊	十五錢
大內青巒	謠曲禪話	全一冊	二十錢
同人	禪學三要	全一冊	三十錢
	法華勝鬘維摩經合本	全一冊	八十錢
鵜谷省軒	法華經縮刷	洋木一冊	五十錢
	釋教文範	全二冊	五十錢
夏期講習會新刻	佛教史要	全一冊	一圓
境野黃洋	講演集	全一冊	八十錢
大靈點	淨土三部妙典	全一冊	四十錢
四有禪師	洞上五位說	全一冊	十五錢
	禪宗史要	全一冊	二十錢
鷲尾順敬	社會學綱要	全一冊	四十錢
浮田和民	勝鬘經縮刷	洋木一冊	十錢
	維摩經縮刷	洋木一冊	二十錢
忽滑谷	英和對照修證義合本	全一冊	十二錢
新	四節引導抄法名撰付字撰付	全一冊	三十五錢
鴻盟社	名家佛教演說集續篇	全一冊	三十錢
其盛	名家佛教演說集	全一切冊	三十錢
說教必携	觀音靈驗記	全五冊	一圓十六錢
	空華談叢	全一冊	三十錢
鶴忍	談話錄	全一冊	三十錢
加藤吐堂	善惡業報因緣集	全五冊	二十錢
說教講演	譬喻因緣集	全再版中	四十錢
近代見聞	佛教大意	全一冊	二十錢
大內青巒	倫理學綱要	全一冊	十五錢
中島德蔵	三國歷史疑問答案	全一冊	二十錢
佛教	若國十傑傳	全一冊	十錢
	海舟遺稿	全一冊	三十錢

忽滑谷	基督教徒ト佛教	全一冊	二十錢
長谷川	科學的宗教	全一冊	三十錢
波邊國武	禪機と哲學	全一冊	十五錢
長谷川	佛教哲學	全一冊	十錢
大內青巒	冠註百法問答抄校本	全五冊	一圓五十錢

●經文之部●

洞上	日課禮誦式	全一冊	上製三十五錢
在家	過去精靈簿	並製二十五錢	四錢
	蓮門經藉錄	全二冊	七十錢
洞上行持	諷經錦囊	全二冊	上製一圓廿錢
洞上行持	諷經錦囊	全一冊	並製九十錢
洞上行持	四分節錄	全一冊	二十錢
	曹洞教會修證義	大形十冊	十五錢
	曹洞教會修證義	小形全一冊	四錢
曹洞宗信徒日課禮誦法		全一冊	八錢
	教佛會講式	全一冊	十八錢
	羅漢講式	全一冊	十八錢
	佛誕生會講式	全一冊	十八錢
	觀音講式	全一冊	十八錢
	觀音經訓點付	全一冊	十錢
	觀音經	かな付全一冊	四錢
	高王觀音經	全一冊	五錢
	觀音懺法	大乘寺版全一冊	二十五錢
	僧那法	全一冊	五錢
洞上行持	諸經要集	全一冊	五十五錢
	洞上在家禮誦式	全一冊	三錢
	佛說延命地藏菩薩經	全一冊	八錢
	佛遺教經	全一冊	十五錢
	二大師直指道歌	信心銘合本 全一冊	十五錢
	笠間妙法蓮華經如來壽量品訓點	全一冊	十五錢
	證道歌	全一冊	十錢
	四陀羅尼集	全一冊	六錢
	四訓	全一冊	六錢
三同契寶鏡三昧合	般若心經	かな付全一冊	二錢
	放生文	全一冊	六錢
	梵網經	全一冊	十五錢
	金剛經	全一冊	十二錢

楞嚴咒	全一冊	六錢	
安樂品	全一冊	八錢	
遺敎經	全一冊	八錢	
藥師如來本願功德經	全一冊	二十五錢	
妙法蓮華經要品	かな付全一冊	二十八錢	
在勤家行法則 三和讃付	全一冊	八錢	四錢

●施本之部●

本田吉祥草	全一冊	八錢	二錢
芳川承陽大師	全一冊	八錢	二錢
大內報德談	全一冊	四錢	二錢
川合佛敎安心談	全一冊	三錢	二錢
大內家庭敎	全一冊	三錢	二錢
大內三心法話	全一冊	三錢	二錢
大內三福	全一冊	三錢	二錢
大內松のまた蔭	全一冊	三錢	二錢
大內皇室ト佛敎ト關係	全一冊	三錢	二錢
能內父母の十恩	全一冊	三錢	二錢
仁藤佛敎と愛國心	全一冊	三錢	二錢
加藤天皇の十德	全品一切冊	三錢	二錢
加藤雜居後の心得	全品一切冊	三錢	二錢
加藤國體の精華	全一冊	三錢	二錢
高用觀音十大願講話	全一冊	三錢	二錢
來馬延命地藏菩薩經講義	全一冊	四錢	二錢
加藤七福神	全一冊	三錢	二錢
はつ夢	全一冊	三錢	二錢
孝行和讃	全一冊	一錢	二錢
彼岸會の法話	全一冊	二錢	二錢
永平寺緣起	全一冊	二錢	二錢
總持寺緣起	全一冊	二錢	二錢
眞道淨土宗信徒心得	全一冊	三錢	二錢
まことの道	全一冊	一錢	二錢
洞上安心要義	全一冊	三錢	二錢
臨機應變	全一切冊	三錢	二錢
因果の枝折	全一冊	三錢	二錢
菩提の枝折	全一冊	三錢	二錢

以上施本者は部數に依り割引あり○郵稅も凡て三十日迄二錢故三四冊又は五六冊同包金二錢にてまいるもあり

一吾護	質神道記	全一冊	定價金九十錢 郵稅金十五錢
人の彌陀	全一冊	定價七錢 郵稅二錢	並製郵稅二錢
法日記	全一冊上製	郵稅四錢	

新刊廣告

村上博士 佛敎講論集

全

定價金壹圓五十錢
郵稅小包料金十五錢

本書は村上博士が年來有志の諸に應じ、又は神緒の招きに應じて想界の一滴を滴されたるものにして、未だ世に顯れざるもの若くは既に公にせられたるものは更に嚴密の校訂を加へて蒐集したる者なれば一たび本書を繙けば親しく講帷に列りて示敎を仰ぐの感ある博士が佛敎研究上に對する態度井に方針を知ることを得、佛敎大綱を領解せらるゝや必せり、蓋し先きに博士の大著『佛敎大綱論』の出るあつて他は紛雜亂麻せる敎界及び學界の風雲漸く頻繁ならんとす本集一たび世に出るあらば靈鷲に觸るゝ所皆拋げ天馬空か蹴て奔走するの概あり、今や轉た傑として夫れ敎界の迷夢を打破することを得べき乎、今試みに所載の要目を示さば左の如し

第一部 論文

末來二十世紀間に於ける宗敎觀 佛敎は其れ理論にある乎將た實際にある乎
佛敎中心地の移動
釋迦牟尼佛出誕入滅の年代考
釋迦牟尼佛出家並に成佛の年齡考
釋尊の出世は果して日本紀元前なるか
釋佛會井に行像の古事
聖德太子の冤を雪く
佛敎研究法に對する鄙見
歷史的三論佛敎
佛敎我觀論
外道論
道元禪師を愍ふ
佛敎倫理學一班
佛敎東漸史

第二部 講義

佛敎概論
因果現法論
性善惡論
敎育と宗敎
龍樹菩薩
南無六字城
禪と念佛との異同
佛陀の出家
人道の實踐法に就て
佛敎の大意
歷史上の釋迦佛
佛敎の過去及び將來
佛敎道德の要領
人性觀
廢物利用
予が人生觀

第三部 演說

理想善と事實善
釋迦世尊

大内青巒居士校閲◉加藤咄堂居士立案

曹洞宗説教大全

●卷中目次●

●法説……三席
●御教諭説教……三席
●御教義説教……七席
●修證義説教……三十四席
●十戒説教……十一席
●高祖大師御遺忌説教……二席
●太祖國師御遺忌説教……二席
●佛降誕會説教……二席
●遠忌説教……二席
●普勸坐禪儀説教……二席
以上六十八席……

時代の變遷と共に布教の法方も亦一變せればなりませぬ、本書は咄堂居士が斬新なる立案により第二十世紀の今日に適するやうに、東西の聖説譬喩因緣を應用して**曹洞宗の宗意安心**を説き明すべき爲め、御教諭を初め修證義各節并に高祖太祖の聖訓を贊歎として軍人布教、職工傳道、監獄教誨の如き特殊の布教は勿論、青年、婦女、老人等各其機に應ずる言語と材料とを用ゐ六十席の説教を集め一席毎に**布教の心得材料の應用**を示したるものでありますから本書一卷さへありますれば曹洞宗の布教師としては充分に伎倆を振ふことが出來るのであります

定價金壹圓五十錢　郵税十四錢

●●●●●禪學者必携の活用珍書●●●●●

禪學活問答

全一冊　袖珍美本紙數三百頁
定價金二十五錢
郵税金四錢

問答二百則
法問百則

近來禪學に關する書籍頻に出づと雖も多くは一場の空談にして、古德の眞意を傳へ禪風の實相を解せしむるもの少し、本書は今人の座談に非ずして、古來の『問答』なるものを活用したるもの故、一讀の下、古人が生命を期して禪機を爭ひたる實況を目擊する思ひあり林、戒會等に於ける法要中唯一の**小參、上堂**等の問答は戒師、導師との答話との參拜の識者をして流汗せしむるとあり又、首座の法問の如きも、追々理屈法問となり了りて禪機の活動は殆んど見るべからざるに至る、是れ實に此等の文字を敎ふる書籍なきに因る、著者大に彈風の衰頽を慨き問答兩者の便利を謀らんため珍襲の書を涉獵して三百の問答を集め、且つ日常直に使用しても支障なきやう四季の時候より、祝聖其他の法要に關するものまで編輯しあり法問には前句の商量までありればハヅセ世話も無く至極重寶なる珍書なり、乞ふ參禪の士師家と雲衲とを問はず、本書を購求熟讀禪宗問答の復古を謀らんとを

●曹洞宗必要の施本發刊●

勅額下賜紀念
皇室と永平寺との關係
（勅額下賜次第）
正價金二錢　百部以上壹錢五厘○郵税四冊迄二錢
全壹冊

再建勸募適用
皇室と總持寺との關係
（再建のすゝめ）
正價郵税共上と同じ
全壹冊

●●曹洞宗 兩本山 冥加金上納心得●●

一部金二錢●郵税五册迄金二錢●五十册以上一部壹錢七厘の割●百册以上一部金壹錢五厘の割●五百册以上仝金壹錢三厘以上何百部にても割引なし

本書の特色左の如し

一、今回冥加金を本山に納むるの可否は免に角、檀信徒なして本山の爲めに納金する必要を知せしめ併せて寺院の爲に納金する必要を知らしむるに勤めること

一、曹洞宗務局のとは少しも云はず、兩本山のものみを説さて、檀家の信仰の心を起さしむる樣勉たること

加藤咄堂居士著

婦女の修養

全壹册　定價金貳拾五錢　郵税金四錢

御婦人方が日常に讀むて其心を養ふべき教訓を簡單に言文一致を以て書き綴り、處女たると子たると母たると問はず、婦人として心得べき精神修養のことがらを節婦烈女の美談を擧げ且著者獨得の見地を以て茶湯、生花、和歌、俳諧に亟る迄悉くこれ婦女の修養が資すべきものとして此上なき好著なり、お伽噺の斬新なるものを收めたれば婦人は勿論男子も亦一本を藏すべきものなり

加藤咄堂居士新著

道の源

定價金二錢

郵税●六册毎に付貳錢十部以上一部に付壹錢五厘づゝ●五十部以上壹部に付壹錢二厘づゝ●百部以上壹部に付一錢づゝ●三百册以上一部に付九厘づゝ以下何部にても同樣

(一)國の榮　(二)人の心　(三)民の道　(四)德の母　(五)道の源

日本國果して文明の國といふことが出來ませうか、日本國を文明にするには如何なる方法に依らねばなりませぬか、それは智德圓滿なる佛教による外はありませぬ、本書は加藤咄堂居士が平易の筆を以て道德の根據を明にし日本國民の守るべき道義を示し第廿世紀の今日國民の守るべきことを説き各宗檀信諸君の讀まねばならぬのであります故に施本には尤も適當であります

加藤咄堂著●修養清話　全一册　定價金貳拾五錢　郵税金四錢

藤井玄番著●女子の教　全一册　定價金貳十錢　郵税金二錢

大内青巒著●普觀坐禪義詮要　全一册　定價金十五錢　郵税金貳錢

西有移山著●禪戒訓蒙　全一册　定價金貳十錢　郵税金四錢

大内青岳著●六方禮經講話　全一册　定價金十五錢　郵税金貳錢

森田惜由著●禪戒法話　全一册　定價金十五錢　郵税金貳錢

家庭文庫

聖德太子

第一篇　定價金十二錢　郵税金二錢

家庭文庫

大石良雄

第二篇　定價金十二錢　郵税金二錢

第三篇以下近刻

護法

毎月一回十日發行一部定價金七錢郵税金五厘年ヶ年前金四十二錢一ヶ年前金八十錢

布教家唯一の大王　慶應義塾大學文學士　忽滑谷快天先生校

富永仲基 出定後語　合本　定價金二十錢　郵税金二錢

服部天游 赤縢々

一名日本最古の大乘非佛説論

最新刊

小野藤太著

佛教八面觀　全壹册

本書は佛教を諸方面より現時の學理と比較し觀察を下したる珍書也

定價金三十錢　郵税金四錢

大本山永平寺御藏版

永平寺眞景

正價拾五錢　郵税貳錢

本願寺に本願寺圖繪あり佛光寺に佛光寺圖繪あり然るに其實力に於て僅に眞宗に匹敵する一大宗派なる曹洞宗に未だかゝるものあるを聞かず是れ實に檀信徒は無論何も眼を佛教界に注ぐものゝ遺憾とする所にして特に今回御恩賜になれる陛下御直筆の承陽の勅額の如き全國道俗檀信の崇仰して隨喜渴仰して拜覽せんと欲する所のものなり並に於て大本山に於ては右の諸額を撮影して優美鮮明なる寫眞版となし加ふるに宏壯雄大なる法堂佛殿僧堂勅使門等山内の諸堂宇廿有餘及び有名なる欄間の彫刻永久寺金景等を同じく寫眞版とし組して永平寺眞景と稱して江湖に頒たるされば一たび此を繙かんかすでに拜登せられたる諸氏は依てます〳〵崇仰の念を促すべく未だ拜登の因緣熟せざるの人は坐ながらその眞景に接し崇高の感を起さるべし而して本國は實にその眞景を寫したるのみならず諸堂建築の由來位置間數彫刻の概要に至るまで一々丁寧に説明を與へたるものなれば一部の大本山永平寺史と云ふも過言にあらず乞ふ道俗檀信の諸士一本を購求してます〳〵信念を培養すると同時に此を有緣の道俗に頒ちて一萬四千の末寺と六百萬の檀信を有する我が大本山の眞相を世に紹介せられよ

淨土宗管長山下現有大僧正題字
忍徴上人序●洛陽隆長著

一枚起請文但信鈔

全一冊

定價金十二錢　郵税二錢

淨土宗の聖典たる一枚起請文に就いては、古來種々の釋文ありしも未だ完全のもの少く、特に同宗間に於ても異議の伴ふものありて、學者布教家の困難するもの多かりき、本書は天臺宗の學匠にして學識深奥なる隆長上人が自ら台宗の教に滿足ぜず、進んで淨土宗の門に入り、一枚起請文を玩味して其旨を諦し、筆を執りて其釋を試みたるものにて、實に完全にして且つ面白く有益なる珍書なり、彼の大藏經校合に就いて有名なる忍徴上人すら之が序を作りて、釋文の非凡なるを稱揚したるもの故宗門の布教師には此上もなき有益のものなるべし、今回山下管長現下の贊成を經て出版發賣したれば諸君の高評愛讀を祈る

淨土教校講師道重信敎老師講述（四光大師御像入）

淨土宗信徒心得

洋裝　全一冊

目文一致
振假名付

金三錢●郵税四冊まで二錢●五十冊以上二錢五厘●百冊以上二錢●五冊以上一錢七厘

第一淨土宗教の必要なる所以●第二四光大師御傳●第三四光大師御眷屬●第四四光大師御和讃●第五淨土宗の教旨●第六彌陀の本願●第七安心起行往生●第八四光大師一枚起請文●第九淨土宗の本山と末寺●第十淨土教のすゝめ

淨土宗の文書布教に適當なる書籍なきは同宗各位の常に痛感せらる所なり、本書は淨土宗碩學道重信敎老師が此缺點を補はんがため、特に講述せられたるものにて、平易通俗に、なるべく專門語を避けて而かも洩れなく本宗必要の件を述べられたるものなれば學者と無學者とを問はず一般世人に淨土宗の信ずべきことを知らしむるには極めて適當なり殊に無二の廉價は本書の特色なり

大内青巒居士新著

最新刊

恭儉

全一冊

定價二錢百冊以上何百冊にても一冊一錢五厘郵税七冊迄二錢
壹百冊（小包料）貳拾錢

教育勅語に仰せ下されたる恭儉博愛といへることに就ては大内青巒居士が常に屢〻演説せらるゝことなれども何れも談片に過ぎぬことなるを今回は老居士自から筆を採られて十分なる説明を試み聖天子の叡旨と佛陀の教訓と一致して二途なき旨を高尚にして且つ平易に説き明されたるは即ち本書なり、依ては就ふて文傳道の用に供せられ、以て國民をして益〻恭儉の美德を涵養せしめられんことを、

中島觀琇老師著

安利賀多喜御世

全一冊

菊版優美　定價二錢百冊以上は何百冊にても一冊に付一錢五厘づゝ　郵税百冊に付小包料貳十錢

目要
第一　安利賀多喜家庭
第二　安利賀多喜社會
第三　安利賀多喜國家
第四　安利賀多喜御法
第五　安利賀多喜行

本書は近世教界の泰斗と仰かれ學識德望兼ね備はりたる中島觀琇老師が獨得の見地に立ち健全なる信念と確實なる論證を以て人の人たる知恩報恩の範疇を明かにし日本國民の守るべき道德を示し最も平易なる語調を以て何人にても讀み安く誰人にても了解し得るが如く撰ばれたるは即ち本書なり且つ其趣味洋〻一たび卷を繙かば立ち所に讀み下すべく卷を終らずんば夜を徹するを知らざる感あり今其紙數は二十有余頁に渉りて細密を盡せり請ふ家庭の和樂を望まるゝ人安利賀多喜御世に美德を修養せらるゝ人一本を購ふて文書傳道の用に供せられよ

大内青巒居士講演

安心の法をり

定價金拾五錢
郵稅貳錢

大内青巒居士の曹洞宗化導要儀に對する智識と經驗とは、二十年來の實地に徴して、何人も信認する所にして、修證義編製其他の事業に對し、振はれたる手腕は、亂に曹洞宗の外護者として、畏敬すべきものなり、慈に現兩本山貫首猊下の御教諭を發せらるゝや、居士深く考ふる所あり、偶ま、某會の特請に應じて、其の大意を講じ、眞さに曹洞宗宗義の深奥を明かにし、以て一宗化導の本義を明かにせんとす、是れ即ち本書なり、且つ彼の御教諭は、現兩本山貫首猊下が、前兩山貫首猊下に繼いで化導の要義を公表せられたる方針發表の大文字なり今此の、大字に對する大内居士の講話は、實に洞門安心の標準ともすべく、又布教師道の好參考書たるべし、本社夙に意を此に注ぐ、依て、充分の校訂を經て之を出版す、希くば洞上の布教に從ふ諸若子本書を購讀して宗義の大要を知り、布教の方針を一定せられんことを

大内青巒居士述

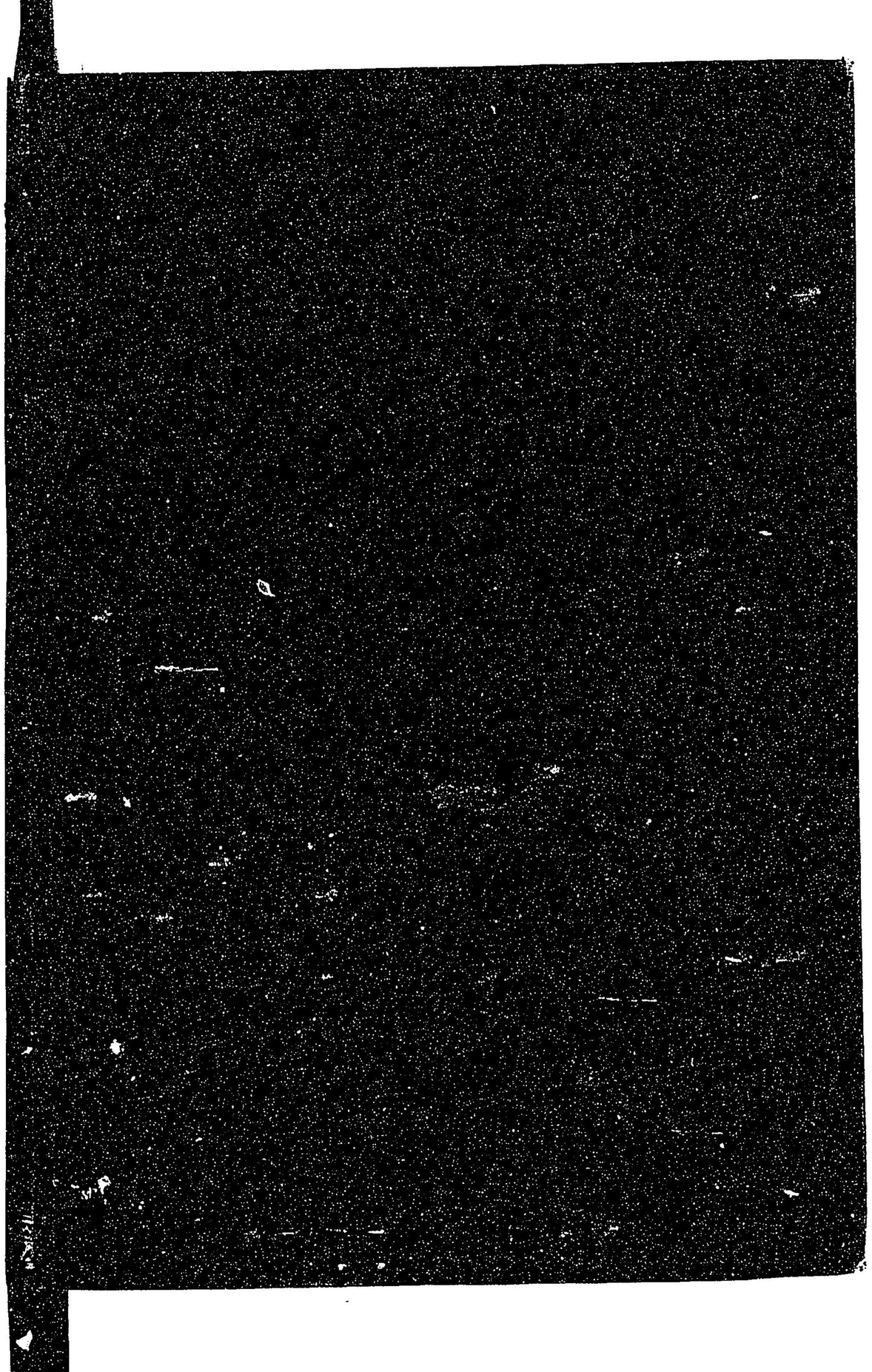
忠孝

定價金六錢郵稅貳錢十冊以上一冊に付四錢づゝ五十冊以上一冊に付三錢五厘づゝ百冊以上一冊に付三錢づゝ

忠孝は立國の大本にして、佛教、倫理の根本なり、

故に日本帝國立國の基礎に適應すべき佛教倫理說を說明するには是非共佛教と忠孝との關係を明かにせざるべからず大内居士夙に佛教と國家との關係に就て熟慮する所あり今回教育勅語の主義に依つて、佛教と忠孝との關係を詳叙し佛教が日本國の倫理教として尤も完全に適當なることを說明せられたるものなり文章は例の如き言文一致體にて平易流暢なれば檀信徒への施本には尤も適當なり、今や倫理宗教教育の問題世に盛なる時佛教徒が教育家社會學者等に教を布くべき參考書として是非信徒に一讀せしむべきものなり

319
Z
31



319
K
31